

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

G. ガリラヤへの第二の旅

11. 悪魔の軍団がイエスに従う

(奇跡その14)

デイリー・ジーザス・ニュース #097

基本テキスト: MK 5.1-20 (並行テキスト: MT 8.28-34; LK 8.26-40)

1 彼らは湖を渡ってガラサ人の地方へ行った。2 イエスが舟から降りられると、汚れた靈に取りつかれた人が墓場から出てきてイエスを迎えた。この人は多くの惡靈に取りつかれて、長い間裸で、自分の家にも住んでいなかった。

3 この男は墓場に住んでいて、非常に凶暴だったので、誰も近づくことができず、鎖でさえ彼を縛り付けることもできませんでした。4 彼は何度も手足をしっかりと鎖でつながれていましたが、鎖を引きちぎり、足の鉄枷も完全に壊してしまいました。誰も彼を制圧できるほどの力はありませんでした。5 彼は昼も夜も墓場や山の中で叫び続け、石で自分の体を傷つけていました。

6 彼はイエスを遠くから見て、走り寄ってイエスの前にひざまずき、7 声を振り絞って叫びました。「いと高き神の子イエスよ、あなたは私に何の用ですか。^{MT}定められた時よりも前に、私たちを苦しめるために来たのですか。『お願いです、神の名においてお願いします、私を苦しめないでください。』」

8 イエスは彼にこう言わされた。 「汚れた靈よ、この人から出て行け、と命じる。」

9 そこでイエスは彼に尋ねられた。 「あなたの名前は何ですか。」

「私の名前はレギオンです」と彼は答えた、「私たちは人数が多いからです。」10 そして彼は、彼らをその地域から追い出さないで、また底なしの淵に落ちよと命じないと、何度もイエスに懇願した。

11 近くの丘の斜面で、豚の大群が草を食んでいました。12 悪靈たちはイエスに懇願しました。「私たちを追い出さぬのでしたら、豚の中に入れてください。豚の中に入らせてください。」13 イエスがお許しになると、汚れた靈たちは出て豚の中に入りました。二千匹ほどの豚の群れは、急な岸から湖になだれ落ち、溺れてしまいました。

14 豚の番をしていた者たちは出て行って、このことを町や村に知らせた。そして人々は何が起こったのか見に出てきた。

15 町中の人がイエスのもとに集まって来て、惡靈に取りつかれている男が着物を着て正気で座っているのをじっと見て、恐れた。16 それを見た人々は、惡靈に取りつかれている男に起こったことと、豚のことを人々に告げ知らせた。

17 そこで人々は、心の中で強い恐怖に襲われ、イエスにこの地方から立ち去っていただくよう懇願し始めた。そこでイエスは舟に乗り、戻って行かれた。

18 イエスが舟に乗られると、惡靈に取りつかれた人がイエスと一緒に行きたいと願いました。19 イエスはそれを許さず、こう言われました。

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

「自分の故郷の民のところへ帰って、主があなたたちにどれほどのことをしてくださったか、また、主があなたたちにどれほど慈悲をかけてくださっているかを告げなさい。」

20 そこで、その人は立ち去って、イエスが自分にしてくださったことをデカポリス地方で語り始めた。人々は皆、驚きに震えた。

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = ^{MT}、マーク = ^M、ルカ = ^L、ヨハネ = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、イエスの言葉は赤字で斜体で書かれています。旧約聖書からの引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト	
位置	デカポリスのゲラサ（ガリラヤ湖の東）
タイムライン	5月～10月（16～21か月目）
イエスの生涯の文脈	第4段階：ガリラヤにおける大宣教
	G. 第2回ガリラヤ巡礼
タイトル	11. 悪魔の軍団がイエスに従う（奇跡その14）

コメント：

イエスのたとえ話による教えに続く六つの奇跡のうち、二番目の奇跡は、無数の悪霊に捕らわれていた男の悪魔祓いと癒しでした。この男は多くの悪霊に取り憑かれており、聖書全体の中でも最悪の悪霊による迫害の被害者でした。イエスがこの男をいとも簡単に解放されたことは、彼の状態の恐ろしさとは対照的で、イエスの並外れた力と恵みを際立たせています。三つの共観福音書すべてが、このイエスとの救いに至る出会いを記しているのは、単なる偶然ではありません。

イエスは嵐を静めた後、夜中にガリラヤ湖を渡りました。ゲラサ（ガダラとも呼ばれる）は、ガリラヤ湖の東南東に位置する「デカポリス」と呼ばれる地域の重要な町でした。町は湖から内陸に約9キロのところにあり、湖畔には豚の群れが身を投げ出した険しい崖がありました。

の第二巡回旅行において、ガリラヤ地方で起こらなかった唯一の出来事です。なぜイエスは第二巡回旅行のこの時期に、湖を渡ってデカポリス地方へ足を踏み入れたのでしょうか？

この悪魔祓いは、イエスが悪魔崇拝者ではないことを示す比類なき証拠となりました。イエスはパリサイ人に対し、もし悪魔の力で悪霊を追い出しているのであれば、サタンの王国は分裂し、必ず滅びるだろうと指摘したばかりでした。イエスが一言で多数の悪霊を一人の人間から追い出したことは、サタンの力を再び分裂させてサタンに対抗させようとしたのではないことを示しています

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

す追い出された悪霊たちは皆、イエスに従うという点で一致団結しており、サタンの王国が分裂していた。場合のように、従順なグループと不従順なグループに分裂していたわけではありません。この奇跡は、パリサイ人の非難に対する反駁となりました。

マタイは、この出来事においてイエスが二人の男から悪霊を追い出したことを指摘しました。しかし、ここで強調されているのは、そのうちの一人、」レギオン」と呼ばれるほどの悪霊に取り憑かれていた男です。ローマ軍において、レギオンは通常5,000人で構成されていましたが、実際の人数は様々でした。この男の悪霊憑きの規模が極めて異例であったため、マルコとルカは、多数の悪霊に取り憑かれた一人の男に物語を集中させました。私たちもそうするべきです。

悪魔の軍団「レギオン」に支配された男の生活は、まさに地獄そのものとも言える生ける屍とでも言うべきものだった。男は墓場に住み、鉄の足かせや大型船を係留できるほどの頑丈な鎖など、いかなる人間の力も彼を拘束することはできなかった。彼は絶えず自らを傷つけ、滅ぼされることを恐れて誰も彼に近づくことができなかった。彼は裸の状態で生きていた。一人の男が悪魔に取り憑かれたことで、街全体と周囲の田園地帯はサタンの力に翻弄され、誰もが闇と死の絶え間ない攻撃に無力だった。

イエスが近づいたとき、男を癒すために何かをする必要はありませんでした。むしろ、誰もが疫病のように避けていた男が、まっすぐイエスのもとにやって来て、ひれ伏したのです。イエスは明らかに彼を歓迎し、悪霊たちを拒絶しました。悪霊たちはイエスを恐れ、男から離れて豚の群れの中に逃げるよう求めました。イエスはそれを許しました。

ほんの数秒の間に、この男は地上で最も虐げられていた男から、正気を取り戻し、着るものと食べる物に恵まれ、イエスの足元で交わりを深める者へと変貌を遂げました。この出会いの終わりに、イエスはこの男を救い主の愛と恵みの証人となるよう、家に帰されました。神の力がイエスを通して示されたこの出来事は、イエスの宣教活動全体の中でも最も偉大な場面の一つでした。イエスご自身がこれを「主はあなたのためになんと大きなことをなさつたことか」と表現されました。この出来事によってイエスは何を得たのでしょうか。

悪霊たちが豚の群れを海に追い込んで滅ぼした後、町の人々はイエスのもとにやって来て、「ありがとう」の一言も言わず、この地から立ち去るように頼みました。イエスは町を再び安全な場所にし、地獄の穴から命を救い出してくださいました。しかし、人々はイエスをすぐに追いかねませんでした。彼らはイエスの自由よりも、大群の悪霊に圧倒される生活を選びました。

応用：

イエスは悪魔とその悪霊たちを完全に支配しておられます。悪魔の嘘と策略を信じた結果として私たちが受けるあらゆる影響と結末から私たちを救うために来られました。イエスは、「レギオン」に虐げられていた男に仕えたように、私たちすべてを決定的に、そして効果的に救ってくださいます。また、イエスはご自身の名において、闇の王国を支配する権威を私たちにも与えてくださいました。イエスは完全に、そして永遠に救ってくださいます。

しかし、イエスが私たちを救い、変えてくださるとき、私たち個人にとって、そして私たちを知るすべての人にとって、現状が揺るがれます。これは必然的に、変化に抵抗し、結果として私たちの人生におけるイエスの働きに反対する周囲の人々との間に大きな緊張を生み出します。私たちはどうすればよいでしょう

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

か？イエスがなさったように、愛と奉仕を続け、すべての人々にメッセージを伝えるために歩み続けることです。

あなたは自分の奉仕活動において、周囲の人々からの抵抗をどのように克服していますか。この点について、イエスの例はあなたに何を教えてくれますか。